

# 赤ひげ先生 ありがとう

利尻国保  
中央病院 西野院長転出

【利尻、利尻富士】二年  
以上にわたって離島医療に  
携わり、本紙生活面「まち  
のドクター奮戦記」でもお  
なじみの、利尻国保中央  
病院（利尻町沓形）の西野  
徳之院長（三）が二十八日、  
島を去った。一九九四年六  
月の着任以来、離島のハン  
ディを乗り越え、産婦人科  
の実現など病院の改善に奮  
闘、島民の健康を支えた。  
「島の人が好きだった」一  
旭川医大に移る青年医師が  
残したのはこんなさこわやか

## 離島医療に尽力 感謝忘れぬ住民たち



な言葉だった。  
今日二十四日午前、同病  
院ロビーはお年寄りや子供  
連れの主婦たちでいつも  
ように混雑していた。診察  
を待つ利尻富士町鷺泊の飛  
島忠志さん（三）は「病気の  
ことを単刀直入に聴いても  
きちんと答えくれた。暮  
らしていく上で不安はなか  
った」と、西野院長の異動  
を惜しんだ。

自治医大（栃木県）出身  
の西野院長が利尻島で働く  
のは今回が二回目。患者本  
位の病院づくりをモット  
ーに、在任中、国や道などへ  
熱心な訴えが実り、医師  
数が三人から四人に増員さ  
れたほか、来春には産婦人  
科の新設などが実現する。

島を去るぎりぎりまで診  
療を続ける西野院長。利  
尻国保中央病院

また、「自分たちの健康は  
自分たちで守ってほしい」  
と島民有志に「利尻島医療  
フォーラム」の開催を呼び  
掛けるなど、島民の健康を  
考え続けた。

西野院長は「歴代の医師  
の努力と行政の理解があっ  
たから」と謙そんするもの  
の、その功績を疑う島民は  
いない。糸谷克明・利尻町  
長は「金をかければ医療器  
具は買えるが、人材はそう  
はいかない。きちんとレシ  
ョンを持った院長の存在は  
大きかった」と強調する。  
同病院は今後、自治医大  
の四人の後輩医師によって  
新たなスタートを切る。西  
野院長は「再びここで働く  
ことはないかもしれない  
が、今後も何らかの形でサ  
ポートしていきたい」と話  
した。